



基本理念

この病院で最も大切なのは患者さんです

The Most Important In This Hospital is the Patient.

安心して相談できる心と脳の専門医療を目指します

人権を尊重し、患者さんが安心し、納得する精神医療・ケアを提供する
説得力のある最新の医学的根拠に基づいた治療を目指す
政策医療を中心に高度の医療サービスを提供する
高度・先駆的な精神医療を模索し、研究・教育・研修に力を入れる
自然に囲まれた落ち着いたアメニティーを提供する
地域の医療機関と協力して心の健康作りをめざす

M E N T A L
Mental Care
EBM
National Policy
Teaching
Amenity
Local Network

Contents

新年のご挨拶	2
電子カルテ稼働について	3
高校生の1日看護体験	3
第73回西日本認知症高齢者対策研修を開催しました	4
こころの健康相談	4
第4回作品展示会	5
認知症高齢者セミナーinきくち	6
芸術展バスレク	6
当院の行事食について	7
南病棟2階の紹介	7
外来診療のご案内	8

発行所：〒861-1116 熊本県合志市福原208
独立行政法人国立病院機構 菊池病院
編集発行：広報誌編集委員会



ホームページ
QRコード



令和七年

新年のご挨拶

院長 山下建昭



明けましておめでとうございます。本年も菊池病院をどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和7年の干支は巳年です。巳（み、へび）は脱皮する姿から復活や再生を意味するようです。ひいては生命力や不老不死、更に富や繁栄を象徴するようです。皆様にとって繁栄する良い年になることを願います。

今年も「最も大切なのは患者さんです。」「安心して相談できる心と脳の専門医療を目指します」をモットーに取り組んで参ります。当院は一般精神科医療はじめ、認知症、強度行動障害、難治性統合失調症、児童思春期ケア、医療観察法などの分野に対応しています。これらの治療を通して、地域に貢献して参りたいと思います。新型コロナウイルス感染症は、一昨年5月で5類となり、特別な対応を要しなくなりましたが、インフルエンザ同様にクラスターの発生には引き続き注意して取り組んでおります。病院での面会時には、ご不便を感じさせることがあるかもしれませんが、どうぞご理解とご協力の程を引き続きお願い申し上げます。

病院は、第一に患者さんがいて、第二にお世話するスタッフがいて、さらに第三には健全経営でないと継続できません。第一につきましては、気軽に相談できる環境整備に努め、地域の皆様との医療連携をさらに推進し、院内における受け入れ態勢を見直して参りたいと思います。第二につきましては、当院には優秀なスタッフが揃っており、働き方改革や電子カルテの有効活用で働きやすい職場づくりを目指します。結果として第三の要件が満たせるように職員一丸となって知恵を出し合って取り組んでいきたいと思っています。

国立病院機構のセーフティネット系の病院として、変化に対応しながら今年も地域に貢献して参りたいと思います。皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。





電子カルテ稼働について

診療部長 田中 亨治

長年使い慣れた紙カルテに別れを告げ、菊池病院でも2024年9月1日から電子カルテの運用が始まりました。電子カルテは大変複雑な情報システムで、使いこなすために覚えなくてはならないことも多いですが、離れた場所で記事や薬歴を探したり、指示や処方を出したりできるようになり、動線の長い当院にとって強力なツールとなりました。幸い、2025年1月現在順調に稼働しています。今回の貴重な投資を活かし、医療の質向上や業務の効率化など、多方面に役立ててまいります。

新しい道具を使い始めるときには相応の苦勞があり、勇気も必要ですが、時代が求める変化に対応し続け、病院をより良くしてゆきたいと考えています。



高校生の 1日看護体験

荒木 留美、丸岩 晃之
岡 愛、森 孝子

今回、認知症治療病棟で3名の高校生の1日看護体験を受け入れました。

受け入れ準備(計画)を通して、私たち自身も改めて自院の強みや自分たちの看護とは何かを考える機会となりました。

感染対策に十分配慮した上で生活機能訓練の見学を企画しました。今回は、患者さんが毎日日付の確認をされる8月のカレンダー作りに参加していただきました。学生さんたちも、初めは緊張した面持ちで戸惑う様子が見られましたが、患者さん方が塗り絵や糊付けを「一緒にしよう」と誘ってくださり、学生さんの表情にも自然と笑顔が出てきました。また、作業療法士、看護師の対応を見て「勉強になりました」という言葉も聞かれました。

バイタルサイン測定、PPE着脱も体験して頂きました。バイタルサイン測定では、お互いの測定値が正常であることを確認すると、ホッとすることも見受けられました。N95マスクやガウン、フェイスシールドの着用では「暑い」と素直な感想が聞かれました。



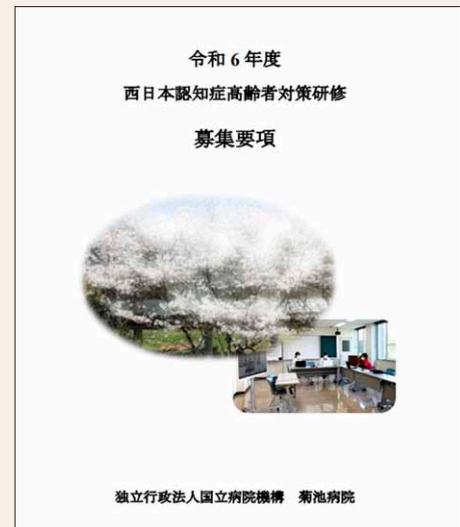
また、現在看護師として働いている私たちが、何故看護師の道を選んだのかについてお話する時間も設けました。昔同じように高校生の1日看護体験に参加し、看護師へ進む道を決めたというスタッフの話が学生さんたちが真剣な眼差しで聞いておられたのが印象的でした。

今回受け入れた学生さんは、高校1年生と2年生で、まだ今後の進路に迷われている方々がほとんどでしたが、この体験が看護の道を考えるきっかけになっていただければ嬉しいです。

令和6年度第73回西日本認知症高齢者対策研修を開催しました

教育師長 坂本 めぐみ

当院は、西日本地区の認知症高齢者モデル事業施設として指定され、その事業の一環として本研修を実施しており、コロナ禍以降はWeb研修に切り替えて継続しております。今年度も認知症の病態、治療、看護についての講義・演習を11月12日（火）～14日（木）の3日間で開催し、九州各県及び大阪、岡山、愛媛等より計35名の看護職が参加されました。研修後のアンケートでは、「認知症の患者さんに起こる症状の機序について学び、日々の対応についても振り返ることができた」、「今回の研修で学んだことを現場に伝え、患者さんやご家族の思いに寄り添った看護をしていきたい」等多くの回答をいただきました。今後も認知症ケアの向上に寄与できるよう継続してまいります。本研修開催にあたり、ご講義いただきました講師の皆様、ご協力いただいた方々に感謝申し上げます。



こころの健康相談

～大津福祉まつりから新たな一歩を～

医療社会事業専門職 阿部 豊輝

こころの健康相談の始まりは、20年前の5月12日「看護の日」。メンタルヘルスの大切さを伝えたいと、有志の職員が集まって始めた小さな相談窓口でした。ゆめタウン光の森や、ココファームでの開催と回を重ねる毎に活動規模も広がり、拠点型認知症疾患医療センターの活動として地域包括支援センターと共催していた時期もありました。大津福祉まつりでは、「菊池地域精神保健福祉の集い」の一環として、毎年、精神障害者の社会参加や地域住民への理解促進を目的に健康相談コーナーを担当していました。

しかし、熊本地震やCOVID-19感染拡大の影響により、あっという間に全ての活動が無くなり、いつしか当時を知る職員も少なくなっていました。

そんな中、令和6年10月に行われた大津福祉まつりでこころの健康相談を再開することができました。わずか8名の相談でしたが、それでも、発足当時の職員の想いを繋ぐことができホッとしています。また一から始まった小さな窓口ですが、地域と繋がる窓口として守り続けたいと想います。



第4回作品展示会

令和6年10月21日から11月1日に“作品展示会”を開催しました。今年も院内から63点もの力作を出品して頂き、展示会場は明るく彩られました。開催中は、病棟の患者様やデイケアの利用者様、ご家族や病院スタッフなど多くの方々に足を運んで頂きました。最終日の表彰式では、表彰された方々は皆さまの祝福を受けて充実した笑顔であふれました。



院長賞（個人）
DC：動物園



事務部長賞（個人）
南1：紅葉とふくろう



看護部長賞（個人）
東：木目込み壁掛け



院長賞（団体）
南2：鯉の滝登り



事務部長賞（団体）
南2：彦星と織姫会えたよ



看護部長賞（団体）
南1：みんなの手でふくろう

また、来場された方から作者への温かいメッセージもたくさん頂きました。なかには、「何十年かぶりに家族から手紙をもらった。作品を見に来てくれた。」と涙を流して喜ばれていた方もいらっしゃいました。日頃の作者の皆様の頑張りを見てもらうことができ、とてもうれしく感じた瞬間でした。作品展示会に関わって下さった皆様のおかげで、今年も大いに盛り上がりました。ありがとうございました。

リハビリテーション科





認知症高齢者セミナー in きくち



地域医療連携係長 **大野 智和**

11月25日と12月23日に「認知症高齢者セミナー in きくち」が当院で開催されました。このセミナーは、「認知症疾患及び認知症ケアについて理解を深め、日々の関わりに活かす」ことを目的としています。認知症疾患医療センター長の塩沢真揮先生、認知症看護認定看護師の坂本真一郎先生、認知症ケア専門士の荒木留美先生より講義をして頂き、大津町地域包括支援センターの日置美春先生、垂水眞

喜代先生より事例を提供して頂きました。セミナーには介護支援専門員や介護福祉士など45名程が受講されました。活発な意見交換が行われ、受講者からも「講義が分かりやすかった。」「認知症ケアについて再認識できた。今後の対応に活かしたい。」などと好評を頂きました。来年度も開催予定ですので皆さまのご参加をお待ちしております。



芸術展バスレク



医療社会事業専門員 **赤星 昂汰**

熊本県立美術館分館において「くまもと障がい者芸術展」が開催され、当院デイケアから個別作品を7作品、グループ作品を1作品出品しました。毎年、利用者さんに創作活動の中で作品を製作していただいておりますが、今年は特に力を入れて取り組まれたようです。

また、デイケアでは院外バスレクとして障がい者芸術展の鑑賞イベントを企画し、展示され

た作品を鑑賞してきました。ご自身で製作された作品が大きな芸術展に展示されているということで緊張されていた利用者さんも、実際に展示された作品を見て笑顔を浮かべていらっしゃいました。他の来場者の方々も当院から出品された作品を楽しまれていたようです。今後も創作を通じて多くの方に喜んでもらえるよう、創作活動に取り組んでいこうと思います。





当院の行事食について

栄養管理室 緒方 ゆり

栄養管理室では通常の食事提供だけではなく病棟でのイベント食や季節の行事食を提供しています。入院中の食事は病気の治療目的だけではなく、患者様の楽しみでもあるため満足していただける献立作りに努めています。春はお花見弁当、夏は七夕や夏祭りメニュー、秋は敬老弁当やハロウィンメニュー、冬はクリスマスやおせち料理、七草、鏡開き、節分、バレンタインデーなど入院中でも季節を味わっていただけるよう考案しています。病棟食事会では患者様の食べたいメニューを事前にかがって、給食で提供できる範囲でできるだけご要望に沿いながら提供します。また、手作りデザートは季節の食材を使用しながら一から手作りで提供しています。今後もフードサービスを通して患者様に寄り添えるよう栄養管理室一同努力してまいります。



南病棟2階の紹介

看護師長 宮川 さおり

当病棟では統合失調症や気分障害、認知症に伴う周辺症状などにより、社会生活や日常生活が困難になられた患者さんに対して、医療や看護の提供をしています。今年度より、精神科認定看護師や退院調整看護師が配置され、より個別性を重視した支援に努めています。週間カンファレンスでは、曜日毎にテーマを決めて、倫理的視点で検討するようにしています。また、多職種カンファレ



カンファレンス風景

ンス（MDT会議）も定期的に行われ、病棟医長を中心に情報共有を行っています。患者さんが、その人らしく地域で生活できることを目標に、薬剤調整や環境調整をしています。入院生活を穏やかに楽しく過ごして頂くために、七夕会やクリスマス会など、季節のイベントを開催したり、患者さんのご希望により、昼食バイキングなども企画運営しています。



七夕会



昼食バイキング



外来診療のご案内 GUIDANCE OF OUTPATIENT CARE

(令和7年1月1日現在)

項目	月	火	水	木	金
新患	田中亨	新井 (9:15~16:00)	三浦 (午前)	武市	渡邊
	西尾		(西尾)		
	渡邊 (第2・第4)				
もの忘れ 外来新患	(塩沢)	塩沢	塩沢		
子供外来	新井 (再来) (午前)				田中恭 (再来) (午前)
	田中恭 (再来) (午後)		田中恭 (再来・新患) (午後)		新井 (再来・新患) (午後)
再来	塩沢	瀬田	渡邊	坂西	山下 (午前)
	武市	山下	両角	西尾	田中亨
	坂口		三浦 (午後)	瀬戸口	塩沢
	三浦 (午後)		新井 (9:15~16:00)	(武市)	

【専門外来】

- ◆ 老年期・・・担当医：塩沢
- ◆ 物忘れ外来・・・認知症予防と認知症に対する専門外来を行っております。
- ◆ MRI検査・・・当院にてMRI検査を受けることができます。

【診察時間】

受診 8:30~15:00
付 8:30~17:00
療 診
休 土・日曜、祝祭日、振替休日、
年末年始(12月29日~1月3日)

【受診方法】

- ◆ 診察については予約制となっております。
- 初診の方：地域医療連携室で予約を行っております。
電話番号は 096-248-2111
- 再診の方：診察後、次の診察日をご予約下さい。
- 予約の無い方は外来に電話で予約して下さい。



交通機関

- JR豊肥本線三里木駅下車
タクシー10分
- 熊本空港よりタクシー約20分



独立行政法人 国立病院機構 菊池病院

〒861-1116 熊本県合志市福原208
TEL 096-248-2111 FAX 096-248-4559
<https://kikuchi.hosp.go.jp/>